北支那方面司令部部隊略歴

年月日	概要
昭三.五.五	復員下令
一六	部隊出発　上海市政府検査場に到り受検す　同日市政府に一泊
七	米軍LST五八八号に乗船　同日出航
一〇	佐世保着上陸後佐世保に二泊す
一三	乗車
	殿田軍曹は残務整理者として二日市復員本部に到り　残務整理を成す
	佐世保上陸時　米軍の要求により仕生要員として　LST五八八号に残留す
	輸送指揮官　陸軍技術中尉　熊山元雄
	支那派遣軍野戦造兵廠　上海支廠

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

北支那方面司令部の一部部隊略歴

年月日	概要
昭二 五 七	北京発　板原少将以下一九八名
	天津に於て第一軍司令部輸送指揮官　高森大佐の指揮下に入る
五 一六	塘沽出帆
五 二〇	博田入港
五 二一	復員式を実施　夫々帰郷せしむ
	橋本主計少佐

0502

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

北支那方面軍刑務所部隊略歷

年月日	概要
昭一三 五 二〇	北支那方面軍刑務所建設せらる所監獄長一　看守長五、看守九　計十五名
一五	神戸港出帆
三一	北支那軍方面軍司令部宿舎に到着、直ちに建設に直手　太原済南分所共不来七年二月末此の間編成改制等戎多の変遷を見つつ終戦に至る然るに、今度一部軍属及軍人家庭の内地帰還を命せらる七時、計二八名部隊出発　七時二十分朝陽門駅着　十三時十分同駅発列車にて
三 一三 七	
八	七時三十分天津貨物廠内地帰還者集結場に到着す
二〇	(2)舟艇に依る編成完了
二二	八時、同廠発列車にて十一時塘沽乗船　十七時出港
二九	十五時　浦頭に着港上陸　徒歩にて十九時三十分佐世保収容所着
二一 一	十五時、同収容所出発　十七時十分発列車にて、各自帰郷す。

0503

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	現在、残務整理人員九名、後続部隊現在残務整理人員八十名なり、後続本隊八月下天津貨物廠に集結とある筈なり。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立現成第一旅団司令部部隊略歴

部隊長　陸軍少将　小松崎力雄

年月日	概要
昭一四・〇	編成完結の状況
一五・〇	軍令陸甲第二十七号に換り同年九月七日編成完結
一五・〇	軍令陸甲第十五号に換り、同年七月十日編成完結
一五・〇	軍令陸甲第十八号に換り、同年三月十日増加配属
一五・八・一七	行動の概要及其の日時
一五・九・八	河北省邯鄲附近の警備撤収
一五・〇・〇	邯鄲出発
一五・〇・〇	石門着
一五・〇・〇	定県着同地附近の警備
一三・一・一三	定県に於て第十一戦区第三十四集団第三軍第三軍長の武装解除

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭三一八	定県出発
〃 二	豊台徒手官吏管理所入所
〃 三	豊台出発
〃 六	天津貨物廠入廠

矢力

回次	出港年月日	出帆港	上陸年月日	上陸港
一	20 11 13	塘沽	20 11 20	佐世保
二	20 12 1	〃	20 12 8	〃
三	20 12 18	〃	20 12 24	〃
四	21 1 11	〃	21 1 19	〃
五	21 1 30	〃	21 2 5	〃
六	21 3 28	〃	21 4 4	〃
七	21 4 4	〃	21 4 11	〃
八	21 4 18	〃	21 4 29	〃

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	九 21 4 16
	一〇 21 4 19
	一一 21 4 22
	一二 21 4 27
	〃
	法
	21 4 23
	〃
	佐世保
	21 4 29
	仙崎
	21 5 4
	仙崎
計 五七人	

0507

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立混成第一旅団司令部部隊略歴

陸軍伍長　小高清白

年月日	概要
昭三三・一・一	小高軍曹以下七名ヒ山一一二大隊衛戍救護班要員を命ぜらる
〃 〃 二	同日一二、一〇分　熱帯波止場到着　一三、三〇分　L.S.T.D二四号に乗船　熱帯沖に停泊す
〃 〃 三	三四分熱帯沖出帆　航行間事故無し
〃 〃 四	一一、二〇分　佐世保港入港　同日一四、三〇分より上陸を開始するも　輸送船の都合により四月三日一三、三〇に至り上陸完了　同日針尾収容所に集結完了す
〃 〃 四	一五、五一分発　長川行列車にて五二名復員帰郷す
〃 〃 五	七、一五分発大阪行列車にて下士官以下四名復員帰郷す
〃 〃 〃	八、四七分発門司行列車にて下士官一名復員帰郷す

0508

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立混成第一旅団司令部部隊略歴

陸軍伍長　中澤幸一

年月日	概要
昭三三三	中澤軍曹以下七名CL大隊編成教育班要員を命ぜらる
	LSTR丁指揮班オ一一〇組輸送指揮官隊付少尉指揮に入る
三三〇	CLオ百十三大隊教育班要員として　八三〇天津貨物廠出発
〃	一四〇〇塘沽港出発　航行間事故なし
三	一一〇〇佐世保港入港、同日〇七〇〇上陸開始一〇一〇、上陸完了
	同日針尾収容所に集結完了
	復員業務終了と共に人事書類輸送指揮官に預託なし
	昭和二十一年四月六日〇七一五発列車にて復員帰郷す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第七十二大隊部隊略歴

通称号　高第二九六二部隊

年月日	概要
自昭和九・七	部隊長官氏名
至一七・三	陸軍中佐　稲澤定和
自一七・三	
至一八・四	陸軍大佐　丸山房安
自一八・四	
至一九・一・五	陸軍中佐　中野寿一
自一九・一・一五	
至二〇・五	陸軍少佐　馬見塚八蔵
一四・九・七	編成完結の状況 中華民国河北省磁県に於て歩兵第十九聯隊第一大隊を基幹として独

0510

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	立歩兵第七十二大隊を編成す
	大隊本部を河北省磁県県城に位置し磁県成安県邯鄲県永年県の警備に従事、主として京漢線 鉄道、磁県磁成安各県城の守備に任ず
	行動の概要及其の日次
昭五、六、四	邯鄲県永年県の警備を独立歩兵第七十二大隊及旅団砲兵隊に移譲し、一ケ中隊を旅団直轄として服務せしむ 爾後該中隊は、邯鄲県に於ける警備の一部を担任し、旅団管内に於ける小討伐に参加す。
七、三、六	旅団直轄中隊たる一ケ中隊を大隊に復帰せしめらる。
八、一、六	成安県の警備を 旅団工兵隊に移譲し、翌三日、新に独立歩兵第七十二大隊より河南省 武安県の警備を継承担任す
〃、四、〃	河南省武安県磁県に於ける鉄鉱山の警備を担任す
自八、六、八 至〃	十八夏大行作戦に参加
〃、八、六	河北省河南省境附近を行動す
	旅団通信隊を邯鄲県警備の儘、指揮下に入らしめられ、邯鄲県の警備

0511

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	を担任し、大隊本部を磁県より邯鄲県邯鄲に移駐す
八八	第一中隊をして河南省彰德県の警備を独立歩兵第七十四大隊より継承
自 一一 至 一二	旅団直轄たらしめらる
〃 〃	北支西作戦に参加、河北省曲陽県附近及固以西地区を行動す
五六	第一中隊は彰德県の警備を独立歩兵第七十四大隊に移譲、大隊に復帰せしめらる
自 〃 七 至 〃 八	磁県地区中に於ける京漢線鉄道及、県城警備を独立歩兵第七十四大隊に移譲し、新に彰德県内に於ける之河鎮炭砿地区の警備を同部隊より継承す
〃 八	旅団直信隊を指揮下より脱せしめ邯鄲県の警備の責を解かり、大隊本部を磁県峯々村に位置せしめ、前記重要事業場、一般炭発電所武安峯々之河鎮各鉄道及磁山之河鎮送電線を含む、及旅団に於ける両方第一線の警備を担任す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二四・七・一	文河満地区の警備を独立歩兵第七十四大隊に移譲し、第一中隊を旅団直轄隊として服務せしむ
〃	旅団直轄隊及び第一中隊を大隊に復帰せしめらる
二九・七・一	新に独立歩兵第七十四大隊より磁県地区の警備を継承、終戦に到る
〃	当に部隊を邯鄲県邯鄲に集結し、京漢線を北上同年九月二十日、河北省定県に到り、主として定県望都間に於ける平漢線鉄道警備に任ず
二一・五・一	部隊を定県に集結鉄道警備を中国軍隊に移譲す
〃	平漢線北上豊台に於て七日間待期の後、一月二十八日天津着海光寺兵営に至り米軍特殊勤務に従事す
〃	天津貨物廠に集結帰国準備を為し四月二十七日塘沽港に於て乗船す
二一・五・六	二日市到着、同年同月十三日復員完結

兵力

終戦時兵力	一一〇八名
掌握者（終戦後収容者）	一三
区分入院	九〇

0513

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	生死不明　九名 死亡者　一人 転属者　九二 除隊召集解除人員　九一四

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立混成第一旅団

独立歩兵第七十二大隊部隊略歴

部隊長　陸軍少佐　馬見塚　八蔵

年月日	概要
昭二一三二五	米田伍長以下之名　しるて勤務員として三月二十五日天津貨物廠に集結　同日分隊主力と分離す
三二七	石井伍長戦犯容疑者として残留
四一	米田伍長以下五名（下士官二名　兵三名）はしるてに依り塘沽港出航
四一六	佐世保に上陸異状なく夫々帰郷せり
	宋田伍長は残務整理者となり四月八日、二日市に至り、事務処理に任し四月八日任務終了帰郷す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第七十二大隊の一部部隊略歴

部隊長陸軍少佐　馬見塚八藏

年月日	概要
昭二一四一三	陸軍大尉、山際大八郎以下百六十九名内地帰還の目的を以て天津出発部隊主力と分離す
四	山際大尉以下百六十九名（将校一名、准士官二名、下士官四二名、兵百二十四名）山ぶ丁により塘沽港出航す
二一	佐世保上陸、夫々異状なく帰郷せり
二七	荒井、藤田中尉残務整理者となり、四月二十三日、二日市に至り、事務処理に任し、四月二七日任務終了帰郷せり 復員完結

0516

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第七十二大隊の一部部隊略歴

本部附陸軍少尉　水野源二

年月日	概要
昭二一三三一	水野少尉以下二八名帰還の目的を以て天津海光寺出発　部隊主力と分離す
四九	中村啓三部隊長戦犯容疑者の為残留
四一二	水野少尉以下二七名（下士官二、兵三）はレスト丸に依り塘沽出航
五七	佐世保港上陸　全員異常なく夫々帰郷せり
	水野少尉は残務整理者となり四月二〇日、二日市に至り、事務処理に任じ　四月　日　任務終了帰郷せり

0517

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第七十三大隊

（独立混成第一旅団隷下）部隊略歴

通称　高第二九文三部隊

陸軍文尉　菱屋信一

年月日	概要
	編成完結の状況
	軍令陸甲第二文号に依り昭和一四年九月七日中華民国河北省、商邑に於て、歩兵第百七聯隊の一部を基幹とし、独立歩兵第七十三大隊編成（本部及歩兵四ヶ中隊編成）完結
	軍令陸甲第三文号に依り編成改正、昭和一八年二月二五日完結（作業隊増加配属）
	昭和二十年軍令陸甲第一八号に依り、編成改正（機関銃中隊、歩兵砲中隊、通信小隊増加配属）
	四月三十日編成完結

0518

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	部隊の行動
自昭和九七 至五五	河北省、高邑附近に於て作戦警備に従事
自六一 至九五七	河北省大名県附近に駐屯作戦警備に従事
自五八 至九三	河北省永年県に主力を位置し、曲周県鉅鹿県平鄉県肥鄉県広平県に天々分駐、警備勤務に従事しありたる所、
八一七	北支那方面軍よりの停戦命令に依り、大隊は其の武力行動を停止し旅団司令部の指令に基き
八三二	天々駐屯地を撤収、永年に其の兵力を集結す
九三	旅団命令に依り、大隊主力は永年県を撤収河北省邯鄲に前進、旅団主力と合体す、
九九	邯鄲出発、石門に前進、獨立歩兵第二旅団の指揮下に入る
九一七	石門出発、新樂県新樂に前進、大隊本部は新樂に位置し、大隊は、県境里村―案西店―新樂―樹廟鎮間の警備に従事す、

0519

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭三一一一四	才十一軍区・才三十四集団才三軍長の武装解除を受け
一一五	新潟県新潟を出発
一一三	豊台集中営に入所 使役勤務に従事しつつ復員業を続行す
四一七	豊台出発天津貨物廠に入所
四一七	天津貨物廠出発
四一一	塘沽港出発
五一四	佐世保上陸
五一七	於二日市 復員完結
	其の他
	死亡者 二名
	生死不明者 二〃
	入院者 五五〃

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立混成第一旅団独立歩兵
第七十三大隊の一部部隊略歴

年月日	概要
昭三 四 二〇	部隊長　大尉
	新崎伍長以下七名　L、S、下、要員として四月二十日天津兵站位生
	班に集結部隊主力と分離
四 一	新崎伍長以下七名（下士官三　兵四）L、S、下に依り、塘沽港出航
四 六	佐世保上陸　異状なく夫々解隊せり

0521

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第七十四大隊部隊名

年月日	職	氏名
自昭和九年二月五日至五月三日	陸軍中佐	岡田與作
自五月三日至六月五日	陸軍中佐	山本二郎
自六月五日至八月六日	陸軍大佐	田辺善藏
自八月六日至二月五日	陸軍中佐	清水助
自二月五日至〃三月五日	陸軍大尉	越山定治
自〃三月五日至〃三月三日	陸軍大尉	大澤宏
自〃三月三日至〃四月九日	陸軍少佐	村上雄次郎
自〃四月九日至〃三月四日	陸軍少佐	重川秋光

0522

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	編成完結ノ状況
昭四九七	独立混成第一旅団編成ニ基キ、独立歩兵第七十四大隊編成セラル、同日編成完結ス
八九	独立警備歩兵大隊編成要員トシテ中隊長、福地中尉以下八十九名転出ス
五二五	独立歩兵第二旅団編成要員トシテ第三中隊ヲ建制ノ儘一九之ヲ大隊ニ転出ス
三二五	第十三独立警備隊編成要員トシテ大隊長以下本部及第一中隊転出ス
四三	転出只隊セル第一中隊ノ編成ヲ完結、並ニ編成改正ニヨリ、機関銃中隊歩兵砲中隊通信隊ノ編成モ完結ス
	行動ノ概要及日時兵力
自四九七 至八八五	河南省彰德地区ノ警備並ニ掃正討伐

0523

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	兵力不詳
自昭六八五 至五六一〇	河北省永年県臨洺関地区の警備並掃正討伐
	兵力不詳
自五六一〇 至三〇八三〇	河南省彰徳地区の警備並掃正討伐
	兵力不詳
自一〇六五 至一〇七五	主力冀魯豫辺区掃正作戦に参加す
	兵力不詳
自一〇六五 至一〇八二〇	主力夏大行作戦に参加す
	兵力不詳
自五五八 至五六一〇	主力河南作戦に参加
	兵力不詳
三〇八三〇	停戦後、河南省彰徳を撤し、河南省新郷に転進し同地に駐留す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二三・三・二七	内地帰還のため、新郷出発
三・一	上海に東直来船準備
四・四	乗船上海港出発
〃・〃	佛領上陸
〃	部隊の復員完了す
	復員時の死亡区分
	隊員名簿解除者　内　地　六八七名
	外　地　一一五
	死亡者　一四五
	戦病者　七五九
	生死不明　六一
	入院患者　六一
	戦犯者　二
	残留者　二

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第七十五大隊部隊略歴

陸軍少佐　二村銀蔵

年月日	概要
	編成完結状況
昭一四九七	軍令陸甲第二十二号に拠り、河北省邢台県順德に於て独立歩兵第七十五大隊編成完結（大隊本部及歩兵四ヶ中隊）
一〇四三〇	軍令陸甲第二十二号に拠り編成改正（作業隊増加編成）
	軍令陸甲第十八号に拠り、編成改正、四三〇日編成完結（機関銃中隊歩兵砲中隊、通信隊増加編成　作業隊解隊）
自一四九七至五六一四	行動概要並に其の時日
	終戦前
	河北省邢台県順德附近に於て

0526

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭一五・六・一五	河北省清豊県清豊附近に於て
至一五・二・二一	以降治安戦を再び河北省柳台県順德附近に於て作戦警備に従事
五・二・二二	
	終戦後
自一九・三・三	河北省東長寿附近に於て正定―南頭鉄道警備に従事す
至一九・一・一四	
二・一・一五	才十一戦区・才三十四集団軍長の武装解除を受く
自一九・三・一九	天津貨物廠に於て廠内警備勤務に一部は塘沽に於て勤務隊使役勤務に
至一九・四・一五	従事す
四・三・五	内地帰還の為塘沽を出帆
五・四・四	仙崎に上陸す
五・一・三	復員完結す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第七十二大隊部隊略歴

陸軍大尉　広瀬勤学

年月日	概要
昭和一四・九・七	編成完結の状況 河北省京漢線邯鄲に於て谷口混成旅団を改編し、独立混成第一旅団の編成完結と共に其の隷下として独立歩兵第七十二大隊を河北省武安県に於編成完結す
自 昭和一四・九・一 至 昭和一四・一二・八	部隊行動概要及日時 部隊は編成完結後、主として京漢線周辺地区に在りて、左記の如く治安肅正警備又作戦に任す
	河南省武安附近の治安肅正討伐警備（警備地区武安邯鄲永年鶏澤）
	河北省曲周附近の治安肅正討伐警備（警備地区曲周鶏澤　永年　肥乗

0528

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
自昭五 至三三	武安） 河北省威県附近の治安肅正討伐警備（警備地区威県南宮平鄉南和慶家） 右期間内に於ける部隊長官氏名左の如し 故　陸軍少將　熊原政彦 陸軍大佐　工藤豊雄 陸軍大佐　飯田房吉
三〇二一	軍令陸甲第一〇号に依り四月三〇日独立歩兵第七十六大隊編成改正完結
三〇四八	大隊長　陸軍大尉　広瀬勝弟 編成改正実施し、昭和二〇年四月十八日大隊主力（第四中隊欠）は旅団命令に依り河北省威県出発、第四十三軍独立歩兵第一旅団長の指揮に入り
四	下旬山東省臨沂県に進駐す

0529

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二〇・八・四	の間、山東省沒海地区剿滅作戦並に対米拠点作戦準備のため、山東省日照石臼所西北方約四粁四七五高地（五〇本部ノC・MG六欠ノA主力ノ一ニ分隊欠）老頃（ホ二中隊主力MG一分隊欠）保安山（ホ三中隊主力MG一小隊）の四山に在りて陣地構築及教育訓練に従事す
二〇・八・一四	停戦詔書発布
二〇・八・一八	各々分散安力を集結困難なる状況下を突破し日照―諸城―膠県道を沿岸添い
二〇・九・一	上旬膠県に集結す
〃	上旬・膠県出発、途中来蒙庄に於て旅団主力（独立第九一旅団）に合し
〃・九	下旬竜山に到着
〃・一〇	下旬竜山出発、
二〇・一〇・二	王村鎮に到着

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
自昭三〇・一〇・二 至　三・一・一三	勝浦線の復旧作業並に同沿線警備（警備地区普象舎ヨリ馬地舎ヒ、の間）
一・一三	玉村出発
一・一六	清南集結（白馬山只舎）
一・一六	内地帰還のため清南出発
二・一六	青島（港口集中営）に集結乗船待期
二・一三	一部兵力（第二中隊）復員のため、青島乗船
二・一六	佐世保上陸復員す（兵力一三五名）

中隊長　陸軍中尉　二之宮　堯　雄

（注）

第二中隊長は　人事係を残留　滝澤甘尉（主力の到着後、人員処理要状なく申受く）

0531

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二一二一七	主力復員の為の青島集結
二二〇	佐世保上陸、徒立歩兵七十文大隊の編成を解き復員完結各々列車輸送を以て帰郷す（兵力五〇四名）（内三中隊百三十五名を除く）
二二二	残務整理の為め、大隊長、広瀬大尉以下二名二日市支那派遣軍復員本部に出頭す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第七十六大隊

第二中隊部隊略歴

部隊長　陸軍少尉　二宮　亮雄

年月日	概要
昭一九七	部隊編成完結年月日
同	部隊編成完結
五一	部隊編成より主なる作戦警備名称
六七	揚色鎮附近の戦斗に参加
七七	第二次北京南作戦に参加
自一九四五 至一九四五	南部大行作戦に参加
自八一 至八三	河南省武安県の警備
	冀西作戦に参加
	河北省曲周県の警備

0533

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二〇・四	安東街附近の義斗に参加
一〇・九	ア号作戦に参加
自一〇・一〇 至一〇・八	山東省日照県沿岸防禦陣地構築並附近の警備
自一〇・八 至一〇・九	部隊集結のための行動
自一〇・一〇 至一一・一	山東省淄川県五村鎮附近に在りて鉄道警備
	部隊主力と分離後の状況
一一・一	徳口某中営に於て第四十三軍司令、天竜部隊長の指揮に入り、内地復員を命ぜらる
一二・二	青島港に於て、LST七二〇号に乗船
一二・一三	青島港出帆
一二・一五	佐世保港上陸
	上陸地（補頭）にて陸軍一等兵黒光俊雄下痢の疑を以って厚生省佐世

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二一二一六	保護院に入院
二一六	諸給與の文給に從事
二一六	復員式終了、中隊長ニ之宮中尉以下一三三名 異状なく帰郷す
	残留者氏名
	書類整理のため陸軍省尉、滝澤秀次復員本部に残留勤務す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立混成第一旅団砲兵隊部隊略歴

通称号　第第二九六七部隊

陸軍少佐　高橋啓郎

年月日	概要
昭三四三	編成完結の状況 軍令陸甲第八号に依り、中華民国河北省邯鄲県邯戦に於て、独立混成第一旅団隷下砲兵隊及野砲中隊を基幹とし、独立混成第一旅団砲兵隊（本部直轄砲二ケ中隊、山砲一ケ中隊）編成完結、同日付二中隊を独立歩兵第七十五大隊に配属
自三四三〇 至六六六	部隊の行動 河北省邯鄲県附近の警備に従事
三九七 九三	旅団命令に依り河北省邯戦県邯鄲を撤収、石家荘に前進 石家荘到着

0536

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭一〇・九・一	第二中隊を独立歩兵第二旅団に所属
九・五	河北省定県到着
自九・五 至一一・二	河北省定県県城警備に従事
一一・四	南平漢線便衣作戦参加の為、本部及第三中隊河北省石家荘に集結
自一一・四 至一一・一三	石家荘市街の警備に従事
一一・一三	在石家荘部隊撤収完了
一一・一七	在定県留守隊撤収完了
一一・一三	在石家荘部隊石家荘出発
一一・一五	豊台到着
〃	豊台回軍従手官吏管理所集中営に入所
一一・一八	在定県留守隊定県出発
一一・一五	豊台着、集中営に入所
一一・一七	豊台集中営出発
一一・一八	天津貨物廠に入所、天津連隊部勤務隊長の指揮下に入り復員業務に従事

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二一四四	内地帰還の為天津出発
〃	標本老出帆
四三	佐世保上陸
四	復員完結
	其の他
	死亡者 二十一名
	入院者 五十之名

0538

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立混成第一旅団砲兵隊部隊略歴

陸軍少佐　高橋啓郎

年月日	概要
	陸軍軍曹　竹村秀男以下七名LST指揮班要員として四月一六日、天津出発、同日郡事乗船完了
	同日塘沽港出発
	四月二十三日仙崎港上陸
	同日金夏天々隊隊召集解除す
	欠　力
	特記事項なし

0539

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立混成第一旅団砲兵隊部隊略歴

陸軍少佐　高橋啓郎

年月日	概要
昭三、四、一〇	部隊主力と分離後の行動概要 部隊主力天津出発、爾後しばらく指揮班要員として何井中支軍士民井の妨害を受くることなく〇〇八〇号に乗船、輸送指揮官後藤小尉の指揮を受け
三、四、一七	塘沽港出帆
四、三	佐世保港上陸
〃	関係書類の整理を完了す
三、四、一〇	復員時に於ける事故者無し
	申し送りとして
	佐世保出張所員人員班浦部大尉に委託帰郷す

0540

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	昭和二十一年四月二十四日 陸軍任官伍長　近立益廣 外四名

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立混成第一旅団工兵隊部隊略歴

陸軍大尉　蛭子幸二郎

年月日	概要
昭三四三	編成完結状況 軍令陸甲第十八号に拠り昭和二十年四月三十日中華民国河北省刑台県順德に於て編成を完結す
七	行動概要並に基幹日 編成以来訓練並に附近の土匪討伐を実施す、此間七月以降河北省邯鄲に移駐し終戦に至る
九六	邯鄲を出発し河北省定県に移駐、鉄道警備に任ず
二一三	武装解除
四五	同月天津に移動し帰国業務に従事す
五四	内地帰還の為塘沽出帆 仙崎上陸

0542

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立混成第一旅団工兵隊部隊略歴

陸軍大尉　姫子　年二部

年月日	概要
昭二一・四・二二	部隊主力と分離行動の概要
二・四・二三	天津出発Qの七文字で乗船輸送指揮官錦織少尉の指揮を受け
四・三〇	唐坨港出発
	佐世保港に上陸
	復員時に於ける事故者
	無　し
	〃
	昭和二十一年四月三〇日
	陸軍書記　遠藤正二郎
	甲し送り
	昭和二十一年　月　日　関係書類整理を完了し佐世保出張所人員班浦部大尉に依託帰郷す

0543

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立混成第一旅団通信隊部隊略歴

通称号　第第二十九部隊

陸軍大尉　木村竜一

年月日	概要
昭和八年九月七日	編成完結の状況 山西省楡次に於て谷口混成旅団通信隊假編成す
同九月七日	軍令陸甲第二十八号に拠り独立混成第一旅団通信隊を河北省邯鄲県邯鄲に於て編成（指揮班有線二ケ小隊・無線一ケ小隊）完結す
同九月一〇日	行動の概要及其日時 晋東作戦参加の為・楡次出発石家荘を経て九月十五日河北省邯鄲に進駐す
九月七日	邯鄲に於て独立混成第一旅団通信隊を編成す
九月三日	引続き作戦参加の為・邯鄲出発山西省太原に前進
八月三〇日	作戦終了後駐地に帰還す

0544

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	不後旅団警備地域内有無線通信連絡に従事
自昭一七四 至八五	主力を以て河北省肥鄉県に進駐警備勤務す
二〇八二〇	北支那方面軍より停戦命令に依り武力行動を停止す
九七	邯鄲出発、石門に前進し独立歩兵第二旅団の指揮下に入り石門に於て待機す
九一七	旅団命令に基き石門出発
八	定県県城に前進有無線通信連絡に従事す
三一一三	中国方面第一戦区第三十四集団第三軍長より武装解除を受け
一一三	定県出発
一一八	豊台兼中営に入所す
一二七	豊台出発　天津貨物廠に入所使役勤務に従事しつつ復員業務を続行す
四一四	天津貨物廠出発同時傷者出帰
四二二	佐世保上陸と同時に復員す
	以　上
	軍令陸甲第二十六号に拠り隊長以下一七五名

0545

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立混成第八旅団司令部略歴

初代部隊長官　陸軍少将　木原義重

年月日	概要
昭一〇・二・一三	編成完結
一〇・二・一三	編成の状況及行動の概要
一・三・一	石家荘に於て第百十師団長管理のもとに編成を完結し、第百十師団長の指揮下に在りて石家荘の警備及京漢線の治安粛正に任ず
三・五	発令により、陸軍少将吉田茂大佐　独立混成第八旅団長に補せらる 着任、任務を継承す
自一〇・四・四 至一〇・七・二	順德に位置し順德道の治安粛正に任じ道甲・縣長を指導し亜地区として治安治区たらしめ、対民家軍紀を厳正にし、民意を獲得せり
自一〇・八・五 至一〇・七・二	唐山に位置し冀東道の治安粛正に任ず

0546

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要	
昭一五九七	発令により陸軍少将竹内安守、任務を継承し冀東道全域に亘り肅正討伐を実施し此の間	
五一〇一七	楊家峪に於て八路軍幹部の集合せるを探知し旅団長陣頭に立ちこれを奇襲して大なる戦果を挙げたり	
自三七三 至三〇一三五	下村方面軍司令官より旅団長宛賞詞電報を受く 冀東にありて主として蘇蒙軍の古北口以南への浸入を拒止すると共に順義―懐柔―密雲―石匣間の鉄道警備及附近の治安警備に任ず	石匣鎮

0547

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp